

# 2012年度 代表事業①

事業名

## しずおか未来学園2012

～生きる力から生き抜く力へ～

委員会

「心の強さ」育む委員会

委員長：大高 彰典

副委員長：塩原 太一郎

副委員長：柳谷 善信

幹事：畑田 響



事業趣旨要約

経済状況の悪化により、子ども達に課せられる現実には先行き不透明であり、また、情報発達の反面、負の要素を含んだ情報が簡単に入手してしまう状況となりました。そして、子どもに対して無関心な振りをする大人が増えたり、子どもに対して過保護になり、子ども達の「わがまま」を増長させてしまっています。

こんな時代だからこそ、子ども達がどんな困難でも立ち向かう事の必要性を知り、何事も諦めない心の強さを育むことが必要です。我々大人も、子ども達の成長に携わることで、真剣に向き合う事の必要性を知らなくてはなりません。本年度「しずおか未来学園2012～生きる力から生き抜く力へ～では、陸上自衛隊での2泊3日体験入隊を通して様々な目標を仲間と共に完遂することで、感謝や喜びを見出し続けるきっかけを作ります。我々大人も、参加児童の為に事業をサポートし成長する姿を感じることで、簡単な気持ちや安易な発想からの関わりではなく真剣に携わるこの大切さを改めて知るきっかけとなります。

未来を担う子ども達が、いくつもの困難を乗り越え目標を達成することで大きな達成感を得ることで、自信を得ることで夢や目標を簡単に諦めない心の強さが育めます。また、我々大人も次代を担う子ども達と真剣に向き合うことで、大人として手を差し伸べる義務を果たせるようになります。これから待ち受ける厳しい時代の中でも「生き抜く力」を持った子ども達が、夢や目標に向かい努力し続ける事で「誇り高き静岡」の創造に繋がります。

背景

- ・経済状況の悪化により、次代を担う子ども達に課せられる現実には先行き不透明なものになっている。
- ・現代の子ども達の環境は、情報技術の発達により利便性が増す一方、負の要素を含んだ情報までもが簡単に入手してしまう。
- ・少子化の影響により親が子どもに対して過保護になり、子ども達の「わがまま」を増長させてしまっている。
- ・子ども達の成長にどのように関わっていいのかわからず、無関心な振りをする大人が増えている。

効果

- ・何事にも最後まで諦める事のない力を養うことで、生き抜く力を育むきっかけになる。
- ・仲間との訓練を通して、感謝や喜びを感じ、達成感と自信を得ることができる。
- ・参加児童の成長する姿を見て感じる事で、成長に携わる事の大切さを再認識することができ、次代を担う子ども達の成長に積極的に携わる事ができる。
- ・子ども向け体験入隊は今までに前例がなく、参加児童が貴重な体験をすることで大きな成長に繋がる。

例会の流れ・目的

- ・児童募集期間(7月10日から7月31日)
- ・メンバー向け説明会(8月8日)
- ・事業説明会・入隊式(8月11日) 静岡市立葵小学校 + 静岡駿府公園ヘリポート

- ・本事業(8月27日・8月28日) 陸上自衛隊 板妻駐屯地
- 8月11日 ①保護者説明会 + 自衛隊によるオリエンテーション②東日本大震災について、③入隊式 + 基本訓練
- 8月27日 ①基本訓練(班動作)、②基本教練(駆け足など)、③装備品展示の見学、④基本訓練(号令調整など)、⑤行進訓練、⑥チームアワー
- 8月28日 ①ラジオ体操、ベッドメイク②観閲行進訓練、③チームアワー、④成果発表、⑤チームアワー

自衛隊施設の見学及び活動についての講義を受ける。自衛隊の普段の活動内容と実際に活動している隊員から直接多くの体験を伝えてもらう。体験入隊訓練(基本教練)では、大人と基本的に変わらない訓練を行うが、個人から班、全体への大きな動きの流れで訓練し個人、仲間と困難を乗り越えていく。基本訓練の内容は、まず、個人で目標を掲げ、それを班(チーム)ごと班旗を製作する(班の目標とチームメイトそれぞれの意気な旗に書く)。班ごとに駆け足、号令、行進訓練を受ける。最後に、全体で観閲行進訓練を受ける。訓練以外では、駐屯地内で出される通常食、災害時に支給される炊き出し、災害時の非常食をとる。チームアワーで、班ごと訓練に対する目標や訓練への感想・問題点を話し合い、次回の訓練への対策を話し合う。そして、目標に対する達成度を話し合いその成果を共有する。

達成検証

事業目的に達した点：

- ・自衛隊施設内における、自衛隊員からの訓練を受ける中で、仲間と共に挑戦し、厳しい訓練をも耐え、自分達だけの成果発表を成功させることができた事により、参加児童の諦めない心の強さを育むことができた。
- ・参加児童と共に自衛隊施設内における生活、訓練を体験するなかで参加児童に対して真剣に向き合うことができ、大人達が参加児童の成長に真剣に向き合うことの必要性を知る事ができた。

所見

生き抜いていく為の力を養うために、自衛隊員の基本的訓練をもとに一泊二日の生活を参加児童と正会員が行いました。まず自衛隊員の普段の活動や東日本大震災における活動を学び、8月27日28日の御殿場市の陸上自衛隊板妻駐屯地内における自衛隊員の訓練を通して、子ども達が仲間と共に協力ながら挑戦し、ひとつひとつ目的を達成していくことで自信を養いました。参加児童にとって普段の日常からは別離された環境で、初めての仲間や初めて知り合う大人達と厳しい訓練を受ける中で、諦めそうな仲間がいたら励まし、時には仲間にご注意喚起することで人と人とのふれあいを知り、目的を達成していく事の喜びを覚え、自ら挑戦する諦めない強さを育むことができた。

目的

- ・どんな困難にも立ち向かう事の必要性を知り、何事に対しても諦めない心の強さを育む。
- ・子ども達の成長に携わることで、真剣に向き合う事の必要性を知る。

事業概要

日時場所：2012年8月11日から8月29日まで、静岡市立葵小学校、静岡駿府公園ヘリポート、陸上自衛隊板妻駐屯地  
参加人数：静岡市内の児童(小学4年生から6年生)75名  
静岡JCメンバー(結果、136人参加)  
事業総額：1,233,035円



#### 担当委員長Q&A

##### 01 未来学園を行う内容、場所の選定で、今回のような自衛隊を選んだ経緯を教えてください。

また、自衛隊という特殊な場所を選ぶ時のハードルなどございましたか。  
理事長所信から反映されている「生き抜く力」というテーマの中で、先の震災において多くの活動をされ、その活動ぶりが知られ注目されたのが自衛官でした。また自分自身も2年ではあるが勉強の場として職務を行った経験から、自衛隊の体験入隊を未来学園事業として役に立てたいと思いました。自衛隊の職責は国防であり、スケジュールもタイトで事前の様々な制約等があり、調整に追われました。特に体験入隊の「基本教練」を、JC活動である未来学園に合った教練に調整していただくために念入りな打ち合わせを行いました。

##### 02 子供たちを自衛隊訓練に入隊させることでどのような気づき・学びを持ち帰ってもらいたかったのですか

自衛官と共に過ごして厳しさや困難を仲間と共に乗り越え、目標の達成に向けて自己成長する事により、夢や目標を諦めない心の強さを育むことです。

##### 03 子供たちの反応はいかがでしたか？不安な様子などあったと思いますがどのように配慮致しましたか？

普通では体験できない、身近に接する事ができない自衛官との触れ合いで最初は緊張もあったようです。しかし、迷彩服の自衛官や特殊車両の展示・乗車、各種武器展示、駐屯地内の自衛官訓練などに次第に興味が出ていた様子でした。家族と離れ、ホームシックになる子もいましたが、仲間の励ましで最後まで頑張れました。実際は、不安という様子よりワクワクして目が輝いている子供たちが多かった印象があります。普段はやらない自衛隊の中での挨拶や行進の練習、チームで日記を共有する時間など、すべてが子供たちにとって刺激になって楽しんでいた様子が強烈に残っています。

##### 04 子供たちの成長・変化をみて委員会メンバーの意識はどのように変わっていききましたか？

自衛官指導をこどもたちと共に受けるにあたって、厳しさやフォローのバランスが大切であるという事をあらためて学びました。また、子ども達が訓練の中で結束していくことを目や肌で感じ取り、それが自然と参加JCメンバーにも伝わっていたと思います。結果として、参加メンバーの絆も深まったことが一番の成果でした。

##### 05 今回の事業に参加してくれた子供たちにどのような大人になってほしいと思いますか？

自らの目標をしっかりと持ち、その目標を簡単に諦めずに頑張る大人になってほしいと思います。

##### 06 委員会メンバーが75人の子ども達の引率をした中で、苦労した点とそこから得た成果を教えてください。

子供たち一人ひとりとはとても個性があり、わんぱくではしゃぐ子もたくさん居ました。しかし、大人のスタッフ・メンバーがしっかり協力し合い、助け合いながら引率していたのでとても安心して活動できました。

#### 取材全体としてのまとめ・感想

取材を通して、未来学園・自衛隊体験入隊で得たものは、メンバー間の「絆」であることと教えてもらいました。JC活動は、参加してみなければ、又は、参加したものしか体験できないものがあり、そこから必ず何かを得ることが出来ます。何を得たかを口で説明することはとても難しいのですが、事業に参加したものは、同じ目をして帰ってきます。「JCは出たもん勝ちです。」という印象がとても残りました。

#### 取材前と後での特に気付いた点

自衛隊の訓練を受けた未来学園ということから「つらさ・きびしさ」の訓練を受けたといった先入観がありました。しかし実際は、子ども達は楽しく体験入隊「基本教練」を受けていたとのことでした。本物の自衛官の訓練している横で挨拶訓練、行進訓練などを受けていただけでもとても刺激になり、すべてに興味を持って訓練を受けていたようです。楽しい訓練・事業を通して子ども達は個々に成長しチームで結束していき、それがJCメンバーにも伝わり「絆」が深まったとのことでした。

